

昭和四十六年六月一七日

第三種郵便物認可

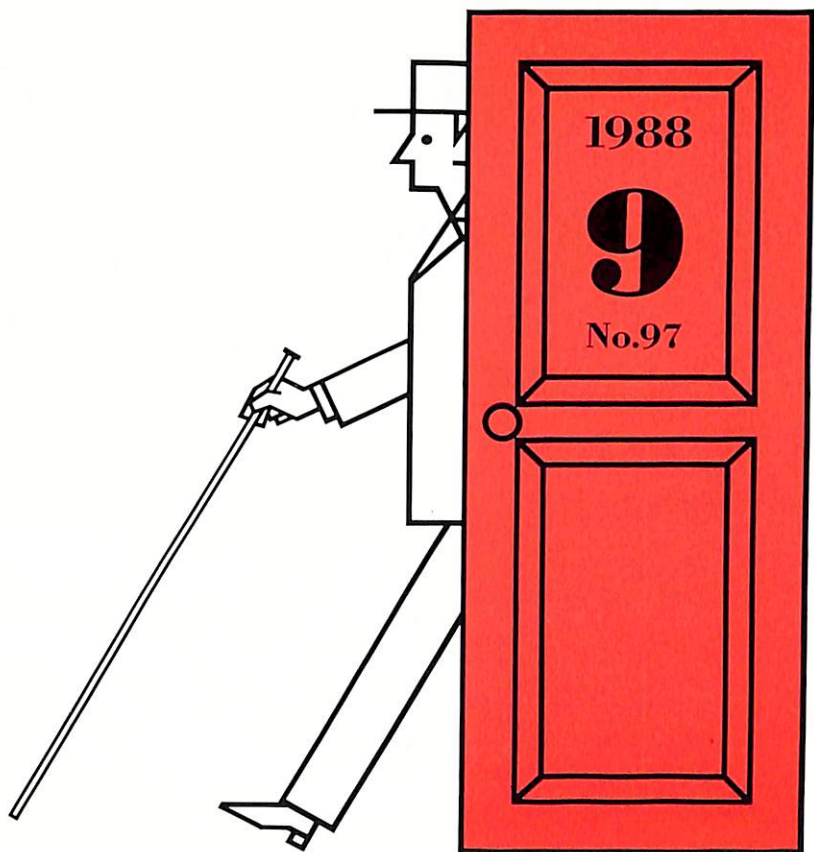
昭和六三年八月一五日

SSK通巻第一七〇三号（毎月六回、5の日、0の日発行）

視覚 障害

その研究と情報

特集＊盲人スポーツ国際版



ISSN 0385-7476

SSK

標準点字表記辞典

改訂版

A5版 288ページ ケース付
定価 1,700円

改訂版が完成しました!!

8人の編集委員が、各方面の意見を聞いて最も正確な改訂版をつくり上げました。5年半にわたる労苦の結晶を自信をもっておすすめします。

お申し込みは、一般書店または日本盲人福祉研究会、日本点字図書館用具部へ。

発行 日本盲人福祉研究会
発売元 株式会社博文館新社

目 次

1988年 9月 No.97

2 ページ評論	井手精一郎… 2
---------------	----------

特集 盲人スポーツ国際版

ソウル・パラリンピックにかける牛窪さん	5
世界初の快挙！ 全盲ランナー杉本博敬、第1回 サイパン・タガマン・トライアスロンを完走！	10
トライアスロンに夢をはせる勝又さん	15
ニューヨークにはためく日の丸、走り幅跳び世界新、 尾崎峰穂の底力	21

この人と語る

社会に出てもスポーツを！	伊藤 忠一・加藤 博志… 28
--------------------	-----------------

がんばれ！ 日本選手団

——ソウル・パラリンピック派遣選手一覧	41
---------------------------	----

点字表記研究の変遷(3)	阿佐 博… 43
--------------------	----------

インフォメーション・コーナー	51
----------------------	----

論文募集のお知らせ	61
-----------------	----

読者の声	62
------------	----

編集後記	66
------------	----



2ページ評論 ソウル・パラリンピックの 日本選手団派遣について

日本身体障害者スポーツ協会常務理事 井手 精一郎

いよいよ、本年10月15日より24日までの10日間にわたり、大韓民国のソウル特別市で第8回目の身体障害者オリンピック大会が開かれる。これをソウル・パラリンピックと称しているが、もともとパラリンピックとは、下半身麻痺者のパラプレジアとオリンピックを組合せて言われているもので、車椅子競技大会のオリンピック年に行なわれる競技を指すものであったが、語呂がよいので頻繁に使用され今日では身体障害者オリンピック大会のことを称するようになっている。

このソウル大会は、1964年のパラリンピック東京大会について、アジアでは2回目の大会となり25年ぶりとなる。我が国からは、第2回目（第1回はローマで行われた）の東京大会より毎回参加しているが、今回は隣国でもあり親善友好もかねて、選手142名といまだかつてない多人数の選手を中心に200名をこえる選手団を派遣することにしている。出場選手は、昨年中に各都道府県・指定都市からの推薦により、選考委員会を経て選考合宿を行い決定された。142名のうち団体競技である車椅子バスケットボール競技に出場する男・女チームの23名を除くと個人競技に出場する選手は119名となる。このうち視覚障害者は25名で女子が2名、男子23名となっている。競技出場種目別にみると女子1名は100m走と跳躍に出場する予定で、他の1名は水泳である。男子では陸上競技が13名、水泳が3名、柔道が7名となっており、陸上競技では、100m走と跳躍を主とする競技に出場する選手が5名、跳躍を主とした競技出場者4名、中・長距離走に1名の他、マラソンに3名が出場する予定である。競走は相手が強豪と思われるので相当がんばらなくては入賞はむずか

しいが、跳躍ではかなり健闘するのではないかと大いに期待している。4年目ごとの大会で、4年間における競技記録の更新が著しいものがみられ、陸上の競争や水泳などでは日本選手が苦戦することになると思われる。

本大会から視覚障害者の競技種目に新たに、マラソンと柔道が加わった。柔道は本来日本のお家芸のはずであるが、健常者のオリンピックや世界選手権などでは日本選手があまり振わなくなってきたようにも思えるので、視覚障害者の柔道では大いにがんばってもらいたいと考えている。この種目は、重量別に7階級に分れており、各階級別に1名のエントリーができるので、日本選手は7名が参加することとなる。欧州勢の様子がよく分らないが、アジア地域では日本が強豪であるようで今回出場選手は5段を含む有段者ばかりであるから、実力を十分発揮すれば、各クラスとも優勝できるのではないかと大いに期待をしているところである。

今回の大会に参加する日本選手団は、200名をこえる大選手団となる予定で、過去における最大の海外選手派遣団は第3回フェスピック大会への参加選手団数100名を大幅にこえるものであり、大いに競技に健闘を期するとともに、国際親善にも努めていきたいと考えている。今回このように多数の選手を派遣することができるのも、厚生省や日本自転車振興会からのご援助をいただいたことによるものであって、ぜひとも所期の目的を達したいと選手・役員一同期するものがある。

この大会が終ると、いよいよ来年の9月は、第5回フェスピック大会が我が国の神戸市において行われる。これには、アジア地域や南太平洋地域の多くの国々から選手を迎えて競技大会が開催されることになるので、我が国からも多くの選手が参加してこれら国外からの選手団を歓迎したいと現在準備を進めているところである。今後とも皆様方のスポーツへの参加をお願いしたいところである。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編集後記

スポーツに汗を流す視覚障害者がふえています、国内だけで参加するのではなく、海外へ出かけて行き、スポーツを通して交流をしてくる人も出ています。パラリンピックが一つのきっかけを作ったわけですが、視覚障害者の生活にゆとりが生まれてきた証拠だと言えます。10月に、ソウル・オリンピックのあとに開かれる身障者スポーツ大会でも、多くの視覚障害者が海外の障害者と交流し、成績だけでなく、よい思い出も作ってくることでしょう。

すでに御案内いたしました通り、本誌では、来年の3月号が100号になることを記念し、論文を募集することにしました。職業、教育、福祉いずれかの分野においても、視覚障害者の周りにはさまざまな問題が山積しています。こうしたものをどう捕え、その課題をどう解決していけばよいのかなどについて、皆様の卓見をお寄せいただければ幸甚です。規定を御一読の上、ふるって御応募ください。また、周りの方に応募をお勧めください。

(田中 徹二)

視 覚 障 害 1988年9月 No.97

年間購読料 3,000 円 (送料とも)

発行日 1988年9月1日

編集人 (連絡先)

日 本 盲 人 福 祉 研 究 会

〒166 東京都杉並区成田東5丁目36番
15号

電話 (03) 220-1421

振替口座 東京 6-16103

発行人 身体障害者団体定期刊行物協会

〒157 東京都世田谷区砧6-26-21

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平2-9-13
電 話 (624) 6111 (代表)

協賛団体 日本点字図書館